



虹のかけ橋

第22号 / 平成18年12月

教育フォーラム

平成18年11月2日(木)
出石文化会館ひぼこホール(豊岡市出石町)



◀《基調講演》
兵庫教育大学
学長 梶田 勲一



◆コーディネーター
神戸大学
助教授 齊藤 誠一

▲《不登校フォーラム》

◆パネラー

香美町立村岡小学校長
加古川市立平岡中学校長
芦屋市適応教室長
スクールカウンセラー
県立但馬やまびこの郷指導主事

中村 市衛
田中 滋子
米澤 光治
高橋 光恵
柳原 守



当所のマイクロバスにも大きくペインティングされ、普段から慣れ親しんでいるこのロゴマーク。

「山々の頂から登ってくる朝日のように、入所児童生徒の心と体、明日への希望が、大空へのびのびと光り輝くように」という願いを表しています。

特に、「3つの光」は、「児童生徒、学校、家庭」の連携を象徴しています。

開所して10年を経た今、あらためて、このロゴマークを見直しながら、「児童生徒」、「学校」、「家庭」の3つをつなぐ役割を果たしていきたいです。

● 内 容 ●

- ◆「但馬やまびこの郷入所児童生徒から見えること」… P.2
- ◆「地域やまびこ教室」「教育フォーラム」…………… P.3
- ◆「お知らせ」等…………… P.4

兵庫県立但馬やまびこの郷

入所児童生徒から見えること

入所1日目の児童生徒

月曜日。県下各地から、児童生徒が保護者の方とともに入所してきます

「出会いの集い」。児童生徒、保護者、我々スタッフが、語らいのへや（和室）において車座になり、互いに自己紹介をする場面があります。

子どもたちの中には、

- ・自分の趣味や入所の目的を交えて、はきはきと自己紹介できる子
 - ・目深に帽子をかぶり、うつむき加減でぼそぼそと自分の名前だけを言う子
 - ・自分の腕の中に顔を伏せ、何も言えない子
 - ・自己紹介の順番がくると、隣に座る母親に寄り添ってしまう子
 - ・みんなが集まっているのを見ただけで、その部屋に足を踏み入れることすらできない子
- など、一人ひとり表情が異なります。

第1日目のこの場面で、いかに子どもたちの心に近づくことができるか、我々スタッフにとって、一番力が入る瞬間です。和やかに会を進めながら、児童生徒一人ひとりの様子や隣に座られている保護者の表情を見ています。

その様子と学校からいただいた情報、保護者との「相談」でうかがった内容とを合わせて「アセスメント」を行い、4泊5日のかかわり方について検討を重ね、活動に活かしています。

事実をふまえて「認める」こと

伊藤 守氏は、その著『会話から始めるコーチング』（大和書房）で、「「認める」と「誉める」は、違う」として、「誉め言葉より事実を認める言葉を」と述べられています。

すなわち、ともすれば誉めることを“認める行為”と考えがちですが、「認めるということは文字通り、行動をそのまま『こういうことをしたね』と言葉に出して伝えること」であるとされて

います。そうして事実を認めるだけで、自分の行為の価値に気づき、結果だけでなく、プロセスそのものを大切にしようとするようになるそうです。

ここ但馬やまびこの郷においても、

「きちんと自分の言葉で自己紹介できたね」

「設計図を丁寧に見て、すてきな飛行機をつくったね」

「あそこで座り込んでたけど、最後まで、しっかりと登りきったな」

など、子どもたちの行動そのものをきちんと言葉にして伝えるようにしています。

特に、最終日の「お別れ会」では、活動をふり返って、子どもたち一人ひとりの「よさ」やこれからの「課題」について、事実をふまえて伝えま

す。
顔を上げ、はにかんだり、時には涙ぐんだりしながら、耳を傾けてくれる様子を見て、4泊5日のかかわりの大切さをあらためて感じさせられる最終日です。

学校との連携に向けて

児童生徒とのかかわりを通して、当所が感じたこと、学校に伝えたいことを、入所後、一通の「活動報告書」にまとめ、学校長あてに送付しています。

最近、児童生徒の入所前に、担任の先生や担当の先生から、当該の児童生徒の状況について、電話で情報提供をいただくことが多くなってきています。また、活動中の児童生徒の様子を見に来られる先生もあります。

そうした機会を通して、当所と学校が互いに「できること」を話し合えることは、非常に意義あることであり、当所が保護者への働きかけを工夫する上でも、大切にしていることです。

児童生徒のために、今後も、学校との連携をさらに深めていこうと考えています。

地域やまびこ教室

「もっとはやく『やまびこ』を知っていれば、今までの何かが変わっていたかもしれない。」

これまで5年間、子どもの不登校に悩んでこられ、今年度、初めて「地域やまびこ教室」に参加された保護者の方の言葉です。

今年度も、初夏から秋にかけて、県下7会場で実施した「地域やまびこ教室」に合計、72名の児童生徒、50名の保護者の方々の参加をいただきました。また、並行して行いました「教職員等研修会」には、小・中学校の教職員や適応教室の指導者等、121名の参加をいただきました。

この「地域やまびこ教室」は、当所から、スタッフが各地



域へと出かけ、当所の取組の一端を知っていただくとともに、不登校問題の解決に向けた一助として実施している1泊2日の宿泊体験活動です。

この活動を経て、当所での4泊5日の入所を申し込まれる児童生徒・保護者の方々もあります。

また、研修会を機に、当所に「相談」に来られ、児童生徒の入所を通じて連携を図ろうとされる担任の先生や担当の先生方もおられます。

児童生徒への早期対応の一環としても、本事業を活用いただいていることに、改めて意義を感じています。

当所が、家庭と学校をつなぐ「かけ橋」の役割を果たすために、より一層、プログラム内容や活動の展開に工夫を図っていきたいと考えています。

多数のご参加、ありがとうございました。



教育フォーラム

222名の参加をいただき、ともに不登校について考える機会となりました「教育フォーラム」。

基調講演では、兵庫教育大学 梶田勲一学長より、「体験と心—不登校から考える—」と題して講演をいただきました。

学長自身の体験もふまえながら、「周りからの支援で大事なことは、**希望しながら待つこと**である」、「出会いの場、体験活動の場など、学校生活と異なる場が、大きな転機となる」、「**転機となるきっかけを準備しながら待つこと**が大切であり、その転機は、人に必ず訪れる」と話されました。

続く「不登校フォーラム」では、「再登校にむけて」と題して、パネルディスカッションを行いました。

小・中学校、適応教室、スクールカウンセラー、当所のそれぞれの立場から、今、目の前の子どもたちへの支援として何が必要なのかを出し合いながら、互いを補う連携について考えました。

「有機的な連携のための多少の苦言も、次への対応の大きなヒントとなること」、「それぞれが取組を充実させながら、積極的に『**顔の見える連携**』を図っていくことの必要性」を確認し合うことができました。

◆ アンケートより ◆

- 「参加して、気が楽になりました。再登校、再出発の流れを考えるよい時間になりました。」
- 「不登校の子どもたちにかかわっておられる方々の考えや対応の現状を聞くことができ、勉強になりました。“あたりまえ”のことを丁寧にかかわってくれている方々がいることを感じた時間でした。」

ご協力ありがとうございました。

「施設見学」、「1日体験」について

県立但馬やまびこの郷に入所することに興味はあっても、いきなり4泊5日の宿泊をすることに負担を感じる児童生徒もあるのでないでしょうか。

そのために、当所では、「施設見学」「1日体験」を勧めています。

「1日体験」は、施設見学、ゲームや製作活動、スポーツをとおして、施設環境やスタッフを知ってもらうために行っているものです。同時に、保護者、教職員や指導者の方から、今の状況を伺い、今後の対応を話し合う「相談」も行っています。

当所に入所する上での最初の小さなステップとして、また、学校と家庭がつながるきっかけとして、ぜひご利用下さい。

お知らせ

「教育相談」・「カウンセリング」について

当所では、馬殿所長やスタッフが話をうかがう機会を設けております。

カウンセリングルームを後にした児童生徒、保護者、教職員や指導者の方から「話ができて、楽になった」、「聞いてもらえて、うれしかった」、「新しい対応の仕方が見えてきた」などの声をうかがいます。

特に、児童生徒については、内面をより深く知ることができ、当所でも普段のかかわりに活かしています。

※教職員が申し込まれる場合は、所定の様式を提出願います。

様式は、ホームページからダウンロードできます。



...やまびこ食堂から

「ふだん、朝ごはんを食べないから。」と、朝ごはんが食べられない子、黙ったまま、うつむいて食べている子、「コンビニ弁当とやっぱ違うな。」と、次の食事を楽しみにしてくれる子など、食事を通して、いろいろな子の姿が見えます。

そうした子どもたちに対して、私たちは、ただ食事を調理して出すだけではなく、子どもたちの食が進むように、明るく声をかけるようにしています。

そのせいか、いつの頃からか、「おねえさんのようなおばさん」という意味で「おねおば」と呼ばれるようになった私たち。日が経つにつれて、子どもたちの食が進むようになり、笑顔や会話が始まると、ついうれしくなり、調理する手も弾みます。

これからも、入所してくる子どもたちの「元気」と「笑顔」のために、バランスのよい食事を用意するとともに、子どもたちに明るくかわわっていききたいと思っています。



当所のホームページをリニューアルしています。

入所に際してご提出いただく書類の各様式をダウンロードすることができます。ご利用ください。

また、当所へのメールの送付につきましては、メールの入力フォームをご利用ください。

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo>

兵庫県立但馬やまびこの郷だより「虹のかけ橋」No.22

●平成18年12月

●発行／兵庫県立但馬やまびこの郷

●〒669-5135 朝来市山東町森字向山45-101 TEL(079)676-4724 FAX(079)676-4721



古紙配合率100%再生紙を使用しています

18教②-018A4